

## 「利永小学校の琉球傘踊り」伝承活動の取組

### 1 学校名

指宿市立利永小学校

### 2 学年・人数

3年生から6年生（計13人）

### 3 場所・日時

#### (1) 練習の場所・日時

利永小学校体育館（発表前の2週間程度）

#### (2) 発表の場所・日時

山川みなと祭り（6月）、利永小学校・校区合同運動会（10月）

山川地域文化祭（11月）等

### 4 伝承・活用に取り組んでいる伝統芸能，伝統行事や史跡について

#### (1) 名称

琉球傘踊り（りゅうきゅうかさおどり）

#### (2) 由来

琉球傘踊りは江戸時代に琉球交易で栄えた山川港近辺に広く伝わっている。利永地区では、昔からめでたい時に踊られてきた。

江戸時代，琉球使節団は山川港に入港すると，航海の無事を感謝して枚開（ひらきき）神社に参拝した。利永地区は，その街道途中にあり，琉球使節団一行が踊った踊りを真似たものだと伝えられている。

戦後しばらく途絶えていたが，昭和52年の利永小学校創立百周年を機に，32年ぶりに復活した。復活した当初は，踊り子は青年会員たちが中心であったが，年々青年の数が減少したため，現在では，利永小学校の児童が踊りを継承している。

#### (3) 構成等

服装は，緋の着物に赤と黄の帯を左横で結び，ひざまで垂らす。着物の両脇を少したくり上げて帯にはさみ，前を開けて前掛けをする。白のバッチを着用し，黒脚絆，白足袋，わらじ，青の手甲，紫の鉢巻を締めて後ろに長く垂らす。

踊りは，両手を高くさし上げたり，ひざを少し折って上向きになったり，股を大きく開き片足に重心を移すなど，動きがめまぐるしく変わる。服装や振りなど，全般を通して琉球風が強調されている。

## 5 保存会や地域との連携の具体

復活当初は、保存会の会長は公民館長が歴任し、指導者若干名と一般会員で保存会を組織していた。

現在は、地域の区長及び集落長が顧問となり、保存会員16人で組織している。そして、利永地区公民館の組織の中に保存会を位置づけており、継承・保存に対する協力体制が確立している。

学校は昭和60年からこの伝統芸能を「学校の宝」として教育課程の中に位置づけている。そして、毎年、小学校・校区合同運動会や山川地域文化祭等で小・中学生と地域の保存会員が一緒になって踊りを披露している。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

利永琉球傘踊りを継承していくために、公民館、保存会、学校が連携して活動を展開している。これまで保存会員だけが踊っていたものを、昭和60年から小学校高学年を踊りに参加させ、以後、毎年継承する形で今日に至っている。

各家庭でも、小学校高学年からは傘踊りを踊るものだという意識が浸透し、親から子どもへの啓発が行われている。

子どもたちは、「ふるさとの文化についての学習」において、琉球傘踊りの由来や伝承の意義について学習している。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



練習の様子



運動会での発表の様子

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### (1) 児童生徒から

今まで伝統文化について興味や考えたことはなかったが、踊りの発表や学習での取材活動を通して、傘踊りの歴史や地域の方々の強い思いで復活したこと等を知ることができた。これからも地域に残る伝統文化を大切に受け継いでいきたいと思う。

### (2) 保存会から

夜間に練習するために保護者の送り迎えが必要であるが、保護者は理解がありとても協力的である。また、学校職員も学校施設の開放等で協力的である。

地域の若者が減少する中で、子どもたちと保存会員が一緒になって踊れることは、今後踊りを継承していく上で大変意義深いものがある。